

専任教員教育研究業績

平成29年 4月 12日

氏名	ふりがな	所属学科	職 位	性別
馬見塚 昭久	まみづか あきひさ	保育学科	学科長 教授・准教授・講師・助教	Ⓜ 女
担 当 科 目 名			学 内 委 員 会 等 (委員長)	
文学・児童文学・言語表現・基礎学力演習・表現総合演習・表現実践Ⅱ 卒業研究 (ゼミナール)			FD 委員会・入試募集委員会	
学 歴				
和暦 (西暦) 年 月	事 項			学位
S59 (1984) 年 3 月	成蹊大学経済学部経営学科卒業			経済学士
H19 (2007) 年 3 月	明星大学大学院人文学研究科教育学専攻修士課程修了			教育学修士
教 育 歴 ・ 職 歴				
名 称	期 間	教 育 内 容 又 は 業 務 内 容		
三菱プレジジョン株式会社	S60年3月～61年6月	経理部原価課		
神奈川県立みどり養護学校	H元年1月～元年3月	臨時的任用教諭		
茅ヶ崎市立茅ヶ崎小学校	H元年4月～7年3月	教諭		
茅ヶ崎市立今宿小学校	H7年4月～15年3月	教諭		
茅ヶ崎市立浜須賀小学校	H15年4月～21年3月	教諭		
鎌倉市立稲村ヶ崎小学校	H21年4月～23年3月	教諭		
鎌倉市立稲村ヶ崎小学校	H23年4月～24年3月	総括教諭		
鎌倉市教育委員会	H24年4月～26年3月	教育部教育総務課社会教育主事		
小田原短期大学	H26年4月～現在	保育学科講師		
所 属 学 会 等				
名 称	活動期間	活動内容 (役職等の活動を含む)		
日本国語教育学会	H26年4月～現在	会員		
日本児童文学学会	H26年10月～現在	会員		
日本近代文学会	H27年4月～現在	会員		
日本文学協会近代部会	H27年5月～現在	会員 (監査係 H28.10～)		
社 会 活 動 等				
名 称	活動期間	活 動 内 容		
・小田原文学サロン実行委員会 ・小田原市読書活動推進講演会講師 ・教員免許状更新講習講師	H27年8月～現在 H27年12月13日 H26、27、28年度	・小田原固有の文学資産の有効活用を図り、文学の盛んな街づくりに寄与する諸活動を行う。読書会、朗読会等を開催。 ・演題「世代をつなぐ児童文学 ―怪異の時空と平和への願い―」 ・「絵本について考える」神奈川県私立幼稚園連合会主催		
担 当 教 科 目 に 関 す る 資 格 ・ 免 許 等				
名 称	取得年月	取 得 機 関		
高等学校教諭二級免許 社会	S62年1月	神奈川県教育委員会 (昭61高2普第352号)		
中学校教諭一級免許 社会	S62年2月	神奈川県教育委員会 (昭61中1普第298号)		
小学校教諭二級免許	H元年1月	神奈川県教育委員会 (昭63小二普第62号)		
小学校教諭専修免許	H19年5月	神奈川県教育委員会 (平19小専修第0005号)		
研 究 実 績 に 関 す る 事 項				
代表的な著書、論文等の名称	単著 共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 1 教室にあたたかい連帯感を	単著	1998年6月	教育誌「子どもと教育」(あゆみ出版) p68～p71	・プラスの視点で一日を振り返ることにより、友だちの良い点を見つけ、教室を温かい連帯感で満たすための提言。

2	子どもたちの想像力・表現力を育てる創作遊び	単著	1999年7月～ 2000年2月	教育誌「子どもと教育」(あゆみ出版)	・従来の型にはまった「課題主義」の作文は、子どもたちの内面的欲求を満足させにくいため、「書くことがない」という事態が生じがちだった。それを打開する方策として、「感覚体験や心の世界をことばで自由に表現する遊び(創作遊び)」を論じたもの。
3	続いつでもどこでも群読	共著	2004年8月	高文研	学級・学年・全校活動のなかでの群読 民話の世界を共有する「モチモチの木」 80ページ～89ページ 企画・編集 家本芳郎・重水健介+日本群読教育の会 ・群読は、言語能力を高め、楽しい学校生活を作ることのできる「声を合わせる文化」である。朗読や演劇とは違う独自の文化活動だが、まだ脚本が少ない。本書では、物語教材の群読実践を紹介した。
4	基本的な生活習慣のしつけ	共著	2005年3月	ひまわり社	A 健康な体をつくることのできる ①健康生活の習慣 11. 運動する習慣が身についている 30ページ～31ページ ②食事の習慣 15. 偏食なく食べることができる 38ページ～39ページ 家本芳郎・編著 ・基本的な生活習慣は、家庭生活、学校生活の「基本」であり、子どもの自立には欠かせないものだが、家庭の教育力が低下しつつある近年、十分身につけさせることが難しくなっている。本書では、家庭生活、学校生活の両面から、自立した子どもを育てるためのヒントを提示した。
5	授業ハンドブック	共著	2005年4月	たんぼ出版	1. 授業の力量をあげる基礎技術 ①授業のルールをつくる 8ページ～9ページ ⑬テスト問題のつくり方 32ページ～33ページ 家本芳郎・編著 ・授業の技は、先輩教師から後輩教師へ連綿と伝えられてきたものだが、最近では多忙化により十分伝えられなくなってきた。本書では、授業の力量を高めるために、これだけは知っておきたいという基礎技術を絵入りで紹介した。
6	パッと使える学級づくり便利グッズ	共著	2008年3月	フォーラム・A	4章 授業をもうりあげるグッズ ・マグネットネームプレート 100～101ページ ・百人一首 104～105ページ 重水健介編著 ・授業や学級活動で役立つ、便利な小物の作り方や使い方を紹介した。単に作り方だけでなく、独創的な使

7 保育入門テキスト	共著	2015年3月	萌文書林	<p>い方も紹介するように努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者を目指す人のために、保育者の仕事内容と保育者になるための勉強のエッセンスを紹介した書である。絵本の特殊性と子どもの見方についての解説を担当した。 <p>Chapter5「絵本や物語と子どもの世界」 22ページ～25ページ</p> <p>共著者:内山絵美子、吉田収、上野奈初美、有村さやか、金澤久美子、野津直樹、市野繁子、吉田眞理、馬見塚昭久</p>
(論文等)				
1「共話」によって拓く、『スイミー』読解指導の新たな可能性	単著	2007年3月	明星大学通信制大学院研究紀要『教育学研究』第9号	<ul style="list-style-type: none"> ・物語教材の授業では、「共話による融合読み」が真に主体的・個性的な読みをもたらすことが報告されている。その有効性を活用して、教科書教材『スイミー』の教材としての不完全性を克服した実践報告。
2 絵本『お手紙』が取り持つ異年齢交流学習 ― 国語科学習における保幼小連携の試みー	共著	2010年12月	埼玉学園大学紀要人間学部編 第10号	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園、幼稚園から小学校への連続性のある学びを目指して、小学校2年生と各自の出身園々児たちとの交流を試みた。本研究では、交流の概要を示し、双方の反応及び意識を確認した。共著者:三浦正雄、馬見塚昭久
3 絵本『お手紙』が取り持つ異年齢交流学習 ― 国語科学習における保幼小連携の試み その2ー	共著	2011年12月	埼玉学園大学紀要人間学部編 第11号	<ul style="list-style-type: none"> ・前述の紀要で明らかにできなかった、園児、児童の作品分析を通して、保幼小連携の可能性を探った。共著者:三浦正雄、馬見塚昭久
4 松谷みよ子氏への書面インタビュー ― 怪談・不思議譚・怪異譚・霊験譚をめぐってー	共著	2014年12月	埼玉学園大学紀要人間学部編 第14号 pp.205～209	<ul style="list-style-type: none"> ・赤ちゃん絵本から民話採の訪まで、幅広い活動をしてきた松谷みよ子氏に対して、怪異へのまなごしをテーマにインタビューをした記録。その結果、氏の作品の根底には、目に見えない世界への真摯な思いが反映されていることが明らかとなった。 <p>共著者:三浦正雄、馬見塚昭久</p>
5 民話における怪異と児童文学における神秘をつなぐもの～『ふたりのイーダ』にみる異界への回路～	共著	2015年3月	小田原短期大学研究紀要 第45号 pp.23～31	<ul style="list-style-type: none"> ・松谷みよ子のファンタジー児童文学と現代民話との接点を追求した。その結果、アニミズムや憑依を源泉とする生命観、仏教における輪廻転生、能における生者と死者との交流という三つの柱を基盤とする回路を明らかにした。
6 山田太一氏へのインタビュー(1) ― 怪談・不思議譚・怪異譚・霊験譚をめぐってー	共著	2015年12月	埼玉学園大学紀要人間学部編 第15号 pp.237～240	<p>山田太一氏は、生活感のある脚本を多数発表してきた一方で、『異人たちとの夏』等、異界や怪異を扱った小説も上梓している。それらの作品がどのような背景のもと、どのような経緯で作品化されていたのか、インタビューによって明らかになった。共著者:三浦正</p>

<p>ぐってー</p> <p>7 児童文学に描かれた告発と怪異 — 『死の国からのバトン』 (松谷みよ子) を支えるもの—</p> <p>8 山田太一氏へのインタビュー (2) — 怪談・不思議譚・怪異譚・霊験譚をめぐって—</p>	<p>単著</p> <p>共著</p>	<p>2016年3月</p> <p>2016年12月</p>	<p>小田原短期大学研究紀要 第46号pp.62～71</p> <p>埼玉学園大学紀要人間学部篇 第16号 pp.201～204</p>	<p>雄、馬見塚昭久</p> <p>従来、松谷みよ子のファンタジー児童文学『死の国からのバトン』は、公害の告発が主テーマと考えられてきた。本稿では、作品に描かれた怪異の意味を考察し、「祖先崇拝による救済」というもう一つの重要なメッセージが隠されていることを明らかにした。</p> <p>山田太一氏の作品がどのような背景のもと、どのような経緯で作品化されていったのか、インタビューした記録の続編。共著者:三浦正雄、馬見塚昭久</p>
<p>その他 (表彰等)</p>				